

## 平成 30 年度の決算概要について

## 1 平成 30 年度入院・外来実績

## (1) 入院

- ・延入院患者数は 118,280 人となり、前年度実績 (118,875 人) と比べて 595 人減少しました。
- ・なお、一日平均入院患者数は 324.1 人となり、前年度実績 (325.7 人/日) と比べて 1.6 人減少しました。
- ・一方、患者一人 1 日あたりの診療単価は 62,962 円となり、前年度実績 (61,432 円) を上回りました。
- ・その結果、入院収益は、入院単価が上昇したことにより、前年度決算額と比べて、1 億 4,400 万円余増加しました。

## (2) 外来

- ・延外来患者数は 135,633 人となり、前年度実績 (138,769 人) と比べて 3,136 人減少しました。
- ・なお、外来診療日 (244 日/年) 一日当たりの平均患者数は、555.9 人となり、前年度実績 (568.7 人/日) と比べて 12.8 人減少しました。
- ・また、患者一人 1 日あたりの診療単価は 21,522 円となり、前年度実績 (20,038 円) を上回りました。
- ・その結果、外来収益は、外来単価が上昇したことにより、前年度決算額と比べて、1 億 3,800 万円余増加しました。

## 【入院・外来実績】

区分		H30決算①	H29決算②	前年度対比	
				(①-②)	(①/②)
入院	延入院患者数 (人)	118,280	118,875	▲ 595	99.5
	本院分	112,302	112,867	▲ 565	99.5
	救命C分	5,978	6,008	▲ 30	99.5
	1日平均入院患者数 (人)	324.1	325.7	▲ 1.6	99.5
	本院分	307.7	309.2	▲ 1.5	99.5
	救命C分	16.4	16.5	▲ 0.1	99.4
	病床利用率(443床ベース) (%)	73.2	73.5	▲ 0.4	99.5
	本院分	74.5	74.9	▲ 0.4	99.5
	救命C分	54.6	54.9	▲ 0.3	99.5
	病床利用率(実稼働ベース) (%)	87.8	88.3	▲ 0.4	99.5
本院分	89.2	89.6	▲ 0.4	99.5	
救命C分	68.2	68.6	▲ 0.3	99.5	
	入院1日診療単価 (円)	62,962	61,432	1,530	102.5
	平均在院日数 (日)	11.6	11.8	▲ 0.2	98.3
外来	延外来患者数 (人)	135,633	138,769	▲ 3,136	97.7
	1日平均外来患者数 (人)	555.9	568.7	▲ 12.8	97.7
	外来1日診療単価 (円)	21,522	20,038	1,484	107.4
紹介率		74.6	70.6	4.0	105.7

## 2 平成 30 年度収支実績

### (1) 収益的収支（税抜）

#### ア 収益

- ・収益は 125 億 6,700 万円余で前年度の決算額を 3 億 1,900 万円余上回りました。
- ・医業収益は、入院収益で入院料や手術料の入院単価が上昇したこと等により、74 億 4,700 万円余と前年度の決算額と比べて 1 億 4,400 万円余増加し、入院収益としては過去最高となりました。外来収益も、注射料を中心とした外来単価が上昇し、29 億 1,900 万円余と前年度の決算額と比べて 1 億 3,800 万円余増加しました。
- ・運営費負担金収益（営業収益）については、研修医に関する人材育成経費や公的基礎年金拠出金のための繰入額等が増加したことにより前年度の決算額と比べて 3,500 万円余上回りました。

#### イ 費用

- ・費用は 120 億 4,200 万円余で、前年度の決算額と比べて、3 億 6,300 万円余増加しています。これは、県に準拠した給与改定や、職員数の増等に伴い給与費（一般管理費含む）が 1 億 6,100 万円余増加したことや、材料費のうち薬品費が、抗がん剤の注射薬の取扱量の増等により 1 億 3,200 万円余増加した他、経費（一般管理費含む）についても清掃業務等の委託費等の増により 1 億 500 万円余り増加したことによるものです。一方で、診療材料費については、手術件数は増加したものの、SPDによる在庫管理や価格交渉及び償還差益により 2,200 万円余減少しております。

#### ウ 損益

- ・経常損益は 5 億 2,500 万円余の黒字となりましたが、前年度決算額に比べ、4,300 万円余黒字幅が縮小しております。黒字決算となった最も大きな要因は、入外収益（入院単価、外来単価）の増（2 億 8,200 万円余）によるものです。
- ・純損益も 5 億 2,500 万円余の黒字で、前年度決算額に比べ、4,300 万円余黒字幅が縮小しております。

### (2) 資本的収支（税込）

- ・資本的収支は、13 億 6,400 万円余の赤字となりました。
- ・建設改良費による医療機器等の整備は 4 億 300 万円余となり、前年度決算額と比べて、2 億 3,000 万円余の減額となりました。主な建設改良費としては、X線投影装置の更新（1 億 6,500 万円）、4K 内視鏡システムの整備（2,300 万円余）、などがあります。
- ・投資有価証券購入費として地方債 3 億円分を購入しました。

## 3 決算指標

- ・医業収益の増（+2.7%）により経常収支比率は、104.4%となりました。

（単位：％）

	H30実績 a	H29実績 b	増減 (a - b)
医業収支比率	92.2	92.8	▲ 0.6
経常収支比率	104.4	104.9	▲ 0.5
給与比率（対医収）	58.0	58.0	0.0
材料比率（対医収）	26.7	26.4	0.3
経費比率（対医収）	15.9	16.2	▲ 0.3
繰入比率（対経常）	14.8	15.0	▲ 0.2

【収益的収支】（税抜）

（単位：千円）

区分	款	項	30年度決算額 A	29年度決算額 B	決算対比(A-B) C
収益	営業 収益	医業収益 ①	10,558,529	10,281,749	276,780
		うち入院収益	7,447,191	7,302,735	144,456
		うち外来収益	2,919,116	2,780,669	138,447
		運営負担金収益	1,739,791	1,704,570	35,221
		資産見返負債戻入	10,674	9,617	1,057
		その他営業収益	40,325	34,753	5,572
		小計 ③	12,349,319	12,030,689	318,630
	営業外 収益	運営負担金収益	119,978	137,855	▲ 17,877
		その他営業外収益	98,605	79,573	19,032
		小計 ④	218,583	217,428	1,155
	臨時利益 ⑦	0	120	▲ 120	
	計	12,567,902	12,248,237	319,665	
費用	営業 費用	医業費用	10,958,399	10,674,270	284,129
		給与費	5,711,415	5,632,838	78,577
		材料費	2,818,562	2,710,720	107,842
		うち薬品費	1,547,223	1,414,860	132,363
		うち診療材料費	1,199,559	1,222,065	▲ 22,506
		経費	1,680,908	1,587,718	93,190
		減価償却費	704,154	700,342	3,812
		資産減耗費	2,839	3,648	▲ 809
		研究研修費	40,520	39,005	1,515
		一般管理費	499,138	404,133	95,005
		小計 ②	11,457,537	11,078,403	379,134
	営業外 費用	財務費用	181,199	208,206	▲ 27,007
		その他営業外費用	403,544	392,646	10,898
		小計 ⑤	584,743	600,852	▲ 16,109
	臨時損失 ⑧	0	0	0	
	計	12,042,280	11,679,255	363,025	
	【医業損益】 ①－②	▲ 899,008	▲ 796,654	▲ 102,354	
	【経常損益】 ⑥ (③+④)－(②+⑤)	525,622	568,862	▲ 43,240	
	【純損益】 ⑥+⑦－⑧	525,622	568,982	▲ 43,360	

【資本的収支】（税込）

（単位：千円）

区分	款	項	30年度決算額 D	29年度決算額 E	決算対比(D-E) F
収入	資本的 収入	長期借入金	343,000	604,000	▲ 261,000
		運営負担金	0	0	0
		その他収入	0	0	0
		小計	343,000	604,000	▲ 261,000
支出	資本的 支出	建設改良費	403,320	633,809	▲ 230,489
		償還金	1,003,894	989,888	14,006
		投資有価証券購入費	300,000	0	300,000
		小計	1,707,214	1,623,697	83,517
	収支	▲ 1,364,214	▲ 1,019,697	▲ 344,517	